

犠牲陽極材 — 腐食抑制型

鉄筋防錆型（マクロセル抑制）

「ガルバシールド CC」は、高い防食性能を維持できる亜鉛形状と高アルカリ性バックフィル材で形成される犠牲陽極材です。進行中の鉄筋腐食とマクロセル抑制をドリル施工で設置可能です。長期的な犠牲陽極材の防食性能は亜鉛量だけでなく、バックフィル材（亜鉛促進剤）の鉄筋に対する品質（塩化物、臭化物を含まない）も非常に重要な役割を担います。

特長

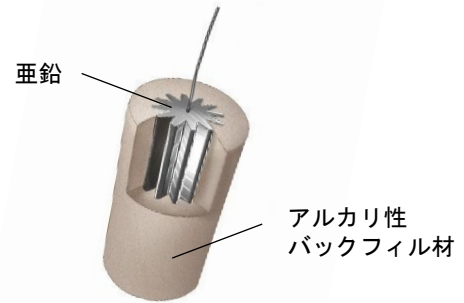
- 特許技術 & 20年の実績
- 防食性能
亜鉛形状と高アルカリ性バックフィル材により長期的に安定した防食が可能です。
- バックフィル材（亜鉛促進剤）
犠牲陽極材による長期的防食性能は、バックフィル材の成分が鉄筋腐食を促進させる塩化物、臭化物を含まないことも重要です。
- 防食効果
容易に推測できる進行中の鉄筋腐食を抑制できます。
- 施工性
ドリル削孔にて簡単に施工できます。
- メンテナンスフリー
電源設備など維持管理費用は必要ありません。
- 耐用年数 約 20 ~ 30年
耐用年数は腐食環境により前後することがあります。

仕様

適用範囲

防食レベル	定義	CC
鉄筋防錆 (マクロセル)	新しい腐食の発生を防ぐ	○
腐食抑制	進行中の腐食を抑制する	○
電気防食	進行中の腐食を止める	—

■ 外観



■ 防食性能

XP = XPT < CC < XP2 < XP4 < DAS / FUSION

※施工時に潮位の影響を受ける場合はご相談下さい。

■ 形状

製品	形状 (mm)	最小削孔サイズ (mm)
CC2	Φ32 x 75	Φ38 x 105
CC4	Φ36 x 100	Φ42 x 130

※施工方法は、連結もしくは個別にそれぞれを鉄筋と設置することができます。

※サイズは標準値で製品には公差があります。

■ 設置間隔

設置間隔は、防食対象部の鉄筋比率（鉄筋表面積とコンクリート表面積）、および塩化物イオン量により決定します。

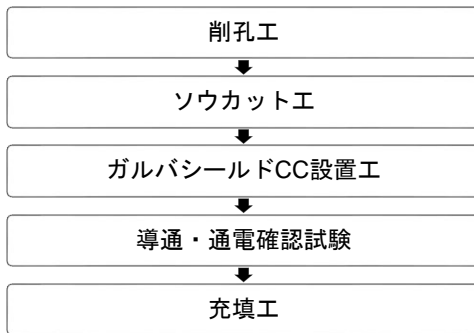
設置間隔表 (塩化物イオン量 2.4kg/m ³ 未満)		
1m ² 当りの鉄筋比率	CC2 最大設置間隔	CC4 最大設置間隔
<0.3	650mm	700mm
0.31 - 0.6	475mm	675mm
0.61 - 0.9	375mm	550mm
0.91 - 1.2	325mm	475mm
1.21 - 1.5	300mm	425mm
1.51 - 1.8	250mm	375mm
1.81 - 2.1	225mm	350mm

※有効半径は、設置間隔÷1.5です。

※塩化物イオン量が 2.4kg/m³ 以上はお問合せ下さい。

施工方法

■ 施工フロー



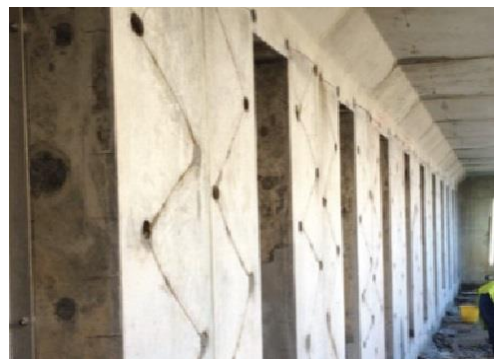
■ 施工手順

- ① 削孔工
 - ・ CC 形状に応じて削孔を行って下さい。
- ② ソウカット工
 - ・ 接続線を埋設するソウカットを行って下さい。
- ③ 設置工
 - ・ 「ガルバシールド CC」と接続線を専用コネクターにて連結下さい。
 - ・ 「ガルバシールド CC」埋設後、コンクリート表面まで 20mm 以上のかぶりを必ず確保して下さい。
 - ・ 接続線の端部は鉄筋と接続して下さい。
- ④ 導通・通電確認試験
 - ・ マルチメーターにて、「ガルバシールド CC」と接続線と鉄筋の抵抗が 1.0Ω 以下であることをすべての設置箇所ですべての確認して下さい。
- ⑤ 充填工
 - ・ 「ガルバシールド CC」の埋設は「ガルバシールド CC 充填材」を使用して下さい。
 - ・ 削孔部の仕上げ、およびソウカット部分は、比抵抗およびガルバシールドの防食性能を確認済みの認証材料を使用して下さい。
 - ・ 認証外の断面修復材は、設置間隔や防食範囲など想定する効果が発揮できない恐れがあり、防食性能を満足しません。

※連結せずに個別に設置することもできます。

詳細は施工要領書を参照下さい。

■ 設置例



荷 姿

20 個／箱

保管上の注意事項

- 保管は直射日光を避け、冷暗所で保管して下さい。
- 保管時に本品が水に濡れないよう注意して下さい。

安全衛生上の注意事項

- 強いアルカリ性を有しますので、マスク、保護メガネ、ゴム手袋等の保護具を着用して下さい。
- 目に入った場合は、直ちに清浄な水で十分洗浄し専門医の診断を受けて下さい。
- 皮膚に付着した場合は、直ちに大量の水で洗浄して下さい。